

News Release

報道関係 各位

2025年12月17日

【イベント開催報告】

青年技術士支援委員会 「“振り返り”で未来を拓く！若手技術士の自己成長ワークショップ」 対面開催にて盛況のうちに終了！

公益社団法人日本技術士会 青年技術士支援委員会（委員長：森 祐真）は、12月13日（土）に東京都港区芝公園の機械振興会館にて、若手技術者が自らの経験を客観的に振り返り、学びを未来の行動につなげる「リフレクション」をテーマとしたCPD行事「“振り返り”で未来を拓く！若手技術士の自己成長ワークショップ」を開催しました。当日は技術士・修習技術者を中心に21名が参加し、活発な議論が行われ、盛況のうちに終了しました。

イベント詳細

本イベントは、自分の経験を客観的に振り返り、そこから学びを得て未来の意思決定や行動に活かす力を身につけることを目的に、講義と個人ワーク、グループシェアを織り交ぜた構成で進行しました。講義パートでは、リフレクションがなぜ技術士にとって重要なのか、また、単なる振り返りではなく「思考の再構成」を促す内省の技法について学びました。特に、事実や経験に対する自分のメンタルモデルを、意見・経験・感情・価値観を切り口に読み解く方法や、「気づき」を次の行動につなげるプロセスなど、実務に直結する観点が紹介されました。個人ワークパートでは、事前に作成した「技術者としての自分史グラフ」を活用しました。自分史グラフとは、横軸に時間、縦軸にモチベーションをとり、これまでの人生の中で印象的だった出来事を可視化するツールです。はじめに、参加者はこのグラフをもとに、印象的な経験から、自分の動機の源泉、現在の価値観や行動の傾向、将来に向けたビジョン（ありたい姿）を個人ワークで整理しました。その後、グループシェアでは、グループ内で対話を行い、整理した内容を共有しました。他者の視点から問いを受けたり、経験の意味を再解釈したりすることで、自分では気づけなかった価値観や強みに気づく場面が多く見られました。参加者同士が深く踏み込んだ対話を行い、互いの経験を尊重しながら自己理解を深めていく様子が印象的でした。

ワーク全体を通じ、参加者からは「自分の価値観を言語化できた」「ビジョンを形成するワークで、自分が実現したいことを言語化することができた」など、リフレクションの効果を実感する反応が多く寄せられました。



個人ワークの様子



グループシェアの様子



集合写真

【本イベントに関するお問い合わせ】

公益社団法人 日本技術士会 青年技術士支援委員会 委員長 森 祐真

委員会内広報グループ：山本直樹 E-mail：pr@peyec.jp ※取材の際は左記までお問い合わせください。

公益社団法人 日本技術士会 青年技術士支援委員会とは？

公益社団法人 日本技術士会は技術士制度の普及・啓発に取り組んでいる唯一の全国組織です。当会は、日本技術士会内に設けられた委員会組織で、45歳以下の技術士、技術士補、修習技術者から構成され、若手技術士に向けた研鑽事業の企画・実施・支援をしています。